

ちぐさ福祉ネットワーク

第2号

編集:千種小学校区小域福祉ネットワーク事務局 発行責任者:千種小学校区小域福祉ネットワーク 会長:杉山興司



防災について考えましょう



ちぐさ福祉ネットワークでは、今回から数回にわたり、防災についての特集をすることにしました。

明けましておめでとうございます。

新しい1年を迎えるにあたり、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年は、西日本豪雨災害、台風21号、北海道胆振東部大地震と、それに伴う大規模な土砂災害等立て続けに大きな災害が起こりました。

大雨や巨大台風、土砂災害といった災害は、今後さらに頻度を増し、被害規模もより大きくなると予想されます。

比較的自然災害の少ない市原市ですが、近い将来起きるといわれる巨大地震として、「房総半島東方沖地震（震度6強）」、「首都直

下地震（震度6強）」、「千葉県北西部直下地震（震度6強）」があげられています。

市原市の最悪の想定では、東京湾口（須崎）から、到達時間約30分で最大2.4mの津波が襲い、姉崎から八幡の海岸部では液状化が起こるといわれています。

災害を避けることはできません。しかし、できるだけ被害を少なくすること（減災）はできます。

まず、どのような準備、対策が必要なのかについては、次のようなことが考えられます。



1 家の「耐震補強」、「家具等の転倒防止」、「地震・津波保険への加入」等、また、近所、近隣との日頃のお付き合いでの協力体制の確立

2 防災訓練への参加

3 通電火災の防止（スイッチ断ボール：ブレーカーの自動遮断装置の設置）

「自分の家族は自分で守る」を実践し減災に努めていきましょう。

次回も引き続き、防災について考えていきたいと思っています。（杉山）

ちぐさ福祉ネットワークでは、こんな活動をしています



12月11日(火) 白塚自治会館で開催した歳末たすけあい運動・地域福祉支援事業の高齢者食事会です。赤い羽根共同募金の配分金を財源に実施しています。

食事会の前のポッチャというゲームです。白いボールを目標に、赤、青のチームがボールを投げ、近いボールが勝ちになります。



他にもこんな活動をしています



あいさつ運動

千種小正門前で、元気に「おはようございます！」



あいさつ運動の横断幕
今までの色があせたので
今年は作り替えました。

安心生活見守り支援事業



一人暮らしの高齢者をお訪ねして見守っています。

災害ボランティアセンターの設置運営訓練



ボランティアを必要な場所に配置しています。

千種フェスティバル



「ふわふわ」というダルメシアン犬の中で子どもたちが跳んだり跳ねたりして大喜びでした。

白金小学校区、若葉小学校区との合同ネットワーク交流会



活動内容を説明しています。

12月1日(土)・2日(日) 五井大市



ポン菓子づくりの音にびっくり!

募金活動にご協力ありがとうございました。

この下3枚の写真は、10月21日(日)に千種コミュニティセンターで開催した茶話会の光景です。



高齢者の皆さんに、お茶とお菓子でおもてなし。



見事なマジックショーのお手並みでした。



どじょうすくい踊り、マジックショーのあとでポッチャゲームを楽しみました。皆さん、初めてなのに、とても上手でしたよ。



千種 こぼれ話

かめづか 瓶塚のはなし (今津朝山)

今津朝山の春日神社の向かいに、フェンスで囲われた瓶塚といわれる塚があります。

今から約一六五〇年むかし、東国の蝦夷が反乱を起こしたので、時の仁徳天皇が、朝鮮で戦功のあった上毛野田道（かみつ）のたみち、又はたじ）将軍を鎮定に遣わしました。

春日神社の碑文には、田道将軍がここで武神をまつり戦勝を祈ったのが、春日神社創建の由来としているようです。

田道将軍は、蝦夷との戦いに向かいましたが、敗れて仁徳五年（西暦三六七年）伊時水門（いしのみと）で戦死しました。遺品の腕輪が届けられると、妻は悲しみのあまり首をつり死んでしまいました。



のちに蝦夷が田道の墓を暴こうとすると、墓から目を怒らせた大蛇が現れ、噛み殺したり毒気を当てたりしてほとんどのものが死亡したといわれます。瓶塚は、この田道将軍の墓と伝えられますが、宮城県の石巻や、秋田県の鹿角（かづの）市猿賀野にも、田



道将軍の墓やそれにもまつわる大蛇の伝説があります。伊時水門も、夷隅港（勝浦）説、石巻説があります。田道将軍は、今は知っている人は少ないですが、明治六年発行の一元札にも描かれています。紙幣の写真の右側で、弓を杖にして立っている人物が田道将軍です。

1月の花言葉

福寿草 「幸せを招く」

「永遠の幸福」

広報紙「ちぐさ福祉ネットワーク」第2号を発行しました。

編集員一同、「明るく、元気に、楽しく助け合い」を合言葉に今後とも活動してまいりますので、皆様ご協力、ご理解の程、よろしくお願いたします。

(編集子)

